

たといそうでなくても

ダニエル書3章

たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません。(18)

ネブカデネザル王は自分の建てた金の像を拝むように全国民に命じました。そして、もし拝まなければ、火の燃える炉の中に投げ込むと脅迫しました。

人々が圧倒的な権力者の命じるままに拝む中、ダニエルの三人の友人は断固としてこれを拒否しました。このことを伝え聞いた王は激しく怒り、三人を呼び寄せ、自分の前に心を変えて金の像を拝むか、さもなければ燃える炉の中に投げ込まれるか、どちらかを決めるように迫りました。このときに三人の青年が口にした言葉が今日の聖句です。もし燃える炉の中に投げ込まれても、彼らの仕えている神が救い出してくださいとお願いするの信仰を告白します。それだけでなく、「たといそうでなくても」と言葉が続けて、もし仮に神が助け出してくださいと祈らなくても、偶像を拝むことは決してしないと断言したのです。ここに、自分の生と死の一切を神の手に委ねきつている信仰者の姿、いかなる圧力にも屈しない真つ直ぐな信仰が表されています。そして主は、命がけでご自分に寄り頼んだ若者たちを決して捨てることなく、燃える火の中から救い出してくださいました。

サタンがキリスト者に対して巧妙な手口で様々な妥協を求めてくるこの時代にあつて、この若者たちのような主に対する真つ直ぐな信仰を持ちたいものです。